

課題名	80 電照ギクの無摘心栽培技術の確立	分類	①								
	3) ギクの12~1月出し栽培における電照方法										
試験研究年次	63~1年 (完了)										
<p>I 目的</p> <p>電照ギクの12~1月出し栽培における消灯後の電照方法が生育開花に及ぼす影響について検討し、栽培技術の改善を図る。</p>											
<p>II 試験方法</p> <p>1 供試品種 秀芳の力</p> <p>2 試験区の構成</p> <table border="0"> <tr> <td>試験Ⅰ 12月出し栽培の電照方法 (63年)</td> <td>試験Ⅱ 1月出し栽培の電照方法 (1年)</td> </tr> <tr> <td>(1) 消灯前 深夜照明</td> <td>(1) 消灯前 深夜照明</td> </tr> <tr> <td>(2) 消灯後2週間 自然日長</td> <td>(2) 消灯後2週間 自然日長</td> </tr> <tr> <td>(3) 消灯後2週間 自然日長、再照明1日間 目以降 再照明3日間、早朝照明(12時間日長)</td> <td>(3) 消灯後2週間 自然日長、再照明2日間、 目以降 再照明3日間、再照明4日間 早朝照明(12時間日長)、夕 方照明(12時間日長)</td> </tr> </table> <p>3 耕種概要</p> <p>(1) さし芽時期 (試験Ⅰ) 昭和63年8月18日 (さし穂低温処理 0℃ 30日間) (試験Ⅱ) 平成1年8月31日 (" ")</p> <p>(2) 定植時期 (試験Ⅰ) 昭和63年9月1日 (試験Ⅱ) 平成1年9月14日</p> <p>(3) 電照期間 (試験Ⅰ) 昭和63年9月1日 ~10月23日 (試験Ⅱ) 平成1年8月31日~11月14日</p> <p>(4) 消灯時期 (試験Ⅰ) 昭和63年10月23日 (試験Ⅱ) 平成1年11月14日</p> <p>(5) 電照方法 消灯前・深夜照明: 9月、深夜3時間 10月、深夜4時間光中断 消灯後2週間・12時間日長: 朝6:00~7:00 夕17:00~18:00 (光中断) 消灯後2週間目以降・再照明: 消灯2週間目から深夜4時間 (光中断)</p> <p>(6) 温度管理 夜間最低13℃ (消灯前1週間及び消灯後3週間、夜間最低15℃)</p>				試験Ⅰ 12月出し栽培の電照方法 (63年)	試験Ⅱ 1月出し栽培の電照方法 (1年)	(1) 消灯前 深夜照明	(1) 消灯前 深夜照明	(2) 消灯後2週間 自然日長	(2) 消灯後2週間 自然日長	(3) 消灯後2週間 自然日長、再照明1日間 目以降 再照明3日間、早朝照明(12時間日長)	(3) 消灯後2週間 自然日長、再照明2日間、 目以降 再照明3日間、再照明4日間 早朝照明(12時間日長)、夕 方照明(12時間日長)
試験Ⅰ 12月出し栽培の電照方法 (63年)	試験Ⅱ 1月出し栽培の電照方法 (1年)										
(1) 消灯前 深夜照明	(1) 消灯前 深夜照明										
(2) 消灯後2週間 自然日長	(2) 消灯後2週間 自然日長										
(3) 消灯後2週間 自然日長、再照明1日間 目以降 再照明3日間、早朝照明(12時間日長)	(3) 消灯後2週間 自然日長、再照明2日間、 目以降 再照明3日間、再照明4日間 早朝照明(12時間日長)、夕 方照明(12時間日長)										
<p>III 主要成果の概要</p> <p>1 電照ギクの12月出し無摘心栽培は、消灯時の10月下旬の日長が12時間前後であるため補光による開花促進や切花品質の向上効果は認められない。</p> <p>2 1月出し無摘心栽培は、消灯後2週間の花成誘導期並びに2週間目以降の花芽発育期を12時間日長になるように暗期の前後を補光することによって開花期が促進され、上位葉が大きくなり、切花品質が優れる。</p> <p>3 再照明は消灯後2週間目から深夜4時間の光中断処理を3日間行くと舌状花率が高くなり、上位葉も増大する。</p>											

IV 主要成果の具体的データ

第1表 12月出し栽培における消灯後の電照方法 (63年)

電照方法		平均	切花長	葉数	切花重量	舌状花数	舌状花率	上位5葉葉面積
消灯後2週間	消灯後2週間間目以降	開花日	cm	枚	g	枚	%	cm ²
	自然日長	12・21	90.4	44.8	79.5	186	87.0	61.5
自然	再照明3日間	12・22	93.5	46.0	82.0	190	92.0	81.0
日長	〃 5日間	12・25	95.0	47.2	85.2	194	93.8	88.0
	早朝照明	12・20	90.0	45.0	81.8	189	88.2	76.8

第2表 1月出し栽培における消灯後の電照方法 (1年)

電照方法		平均	切花長	葉数	花首長	小花数	舌状花率	上位5葉葉面積
消灯後2週間	消灯2週間間目以降	開花日	cm	枚	cm	枚	%	cm ²
	自然日長	1・16	94.6	54.2	1.7	192	92.2	49.2
	再照明2日間	1・18	101.0	53.6	2.2	196	93.4	74.8
自然	〃 3日間	1・19	96.6	53.4	2.1	200	97.0	77.2
日長	〃 4日間	1・20	93.0	54.6	2.4	197	93.9	80.6
	早朝照明	1・15	94.2	53.6	1.7	197	89.3	53.2
	夕方照明	1・15	91.4	52.4	2.2	199	88.9	73.8
	自然日長	1・13	94.8	52.8	1.8	198	85.4	64.2
	再照明2日間	1・16	99.2	51.1	2.4	201	89.6	82.2
12時間	〃 3日間	1・17	98.2	52.8	2.0	200	93.0	87.2
日長	〃 4日間	1・18	95.4	54.4	2.1	201	93.5	105.2
	早朝照明	1・12	90.0	52.2	2.4	206	84.5	85.2
	夕方照明	1・12	92.2	50.2	1.9	207	85.0	78.2

V 成果の評価と取扱上の留意点

県内の電照ギクの無摘心栽培産地の消灯後の電照方法として活用できる。

VI 今後の研究上の問題点

2~3月出し無摘心栽培における花成誘導期の電照方法

VII 資料名

63~1年度 福岡県農業総合試験場園芸研究所 花き花木試験成績書